

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国歴史教育研究協議会

(代表者 高野 修一 会員数 約16,200人)

T E L 0422-51-4554

1 前 文

平成30年3月告示の学習指導要領が令和4年4月に入学した生徒から年次進形で適用され、今年度入試が全面施行の最初の年にあたる。そこで今年度の共通テストの本試験、追・再試験から歴史総合の試験が施行された。

歴史総合は「近現代の歴史の変化に関わる諸事象」を、「歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる」ための「資質・能力を」育成するものである。その学習内容は、歴史的な見方考え方を学び、問いを中心に構成する学習の重視、歴史の大きな変化に着目して世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉える学習を行う点が特徴である。また学習内容を示す項目は、知識を身に付ける項目とそれに対応して思考力・判断力・表現力等を身に付ける項目からなり、両者を貫く主題を設定して学ぶことで一体的な理解に至るという構造である。

以上の歴史総合の目標や内容、科目の構造に照らし合わせて、共通テストの設問について検討していく。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

本試験の歴史総合では、世界史の分野からの出題が多かったが、追・再試験では、日本史と世界史がバランス良く出題されている。『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」は第1問が8問、第2問も8問で計16問、配点は3又は4点で合計50点である。『歴史総合、日本史探究』には日本史に重点が置かれた「歴史総合」の第1問の8問で「歴史総合」と同じ配点で25点となっている。『歴史総合、世界史探究』には、世界史に重点が置かれた第2問の8問が「歴史総合」と同じ配点で25点となっている。

出題内容は「世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉える」という目的から、外交や国際関係等の問題が最も多く、それ以外の政治史、社会経済史、文化史からもバランス良く触れて出題している。出題形式は正文の組合せ4問、語句の選択5問、語句の組合せ2問、正誤問題3問などが多く、正誤の組合せは1問、年代配列問題は1問のみであった。全体的には生徒がテーマを決めて調査した資料の現代語訳や、調査メモから読み取れることとして、正しい文章を以下の選択肢から選んで答えなさいという問題が多かった。これは歴史総合の目標(1)「諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける」に合致した出題形式と言える。

歴史総合の時代区分は世界史と同様、第二次世界大戦から戦後処理までを一体的に捉えている。この時代区分によって出題された時代を分けると、国民国家の形成や世界の一体化の時期からの出題が4問、第一次世界大戦前後の時期からの出題が2問、第二次世界大戦前後の時期からの出題が3問、冷戦期からの出題が4問、冷戦から現代のグローバル化の時代にかけての問題が3問である。以下、詳細を見ていく。

第1問 歴史総合の導入の授業で、日常生活における時間概念について生徒が資料を収集して探究活動をしたという設定で出題される。学習指導要領の「歴史の扉」に相当する。Aは労働時間の

歴史的な変化を扱い、Bは東アジアにおける時間の基準の統一ということで標準時子午線と歴史の関係を問う。Cは第二次世界大戦に関わる記念日と政治の関係を問う。

問1 19世紀イギリスやフランスの労働時間に関して生徒が調べたメモが提示される。工場主は労働時間を守り、一定期間内に仕事を終わるよう労働者に圧力をかけ、労働者は「聖月曜日」の習慣から日曜日に深酒をして月曜日の始業期間を守らず欠勤する者がおり、仕事の手順や労働時間は自分で決める意識が強かったというもの。歴史総合の「歴史と私たち」に対応した問題で、近代になって社会がどのように変化したかを、それが現代にどのようにつながっているかを問う。資料から考察した文章として正しい二つの文の組合せを答えさせるもので、資料から正しい情報を読み取り、産業革命の正しい理解と組み合わせて近代に時間の感覚が変化したことがわかる良問である。

問2 戦後日本の女性の労働時間の変化を示すグラフで、高度経済成長期の1965年を境に、長時間雇用者が短時間雇用者より多い傾向が逆転し、短時間雇用者が長時間雇用者より多くなったことを示す。二つの文の正誤を問う問題で、1965年が高度経済成長期で、この時期に短時間雇用者が多い状況が逆転したことを読み取り、バブル景気が始まった1987年頃を見ると短時間雇用者は約23%であることを読み取る。基礎知識を基に資料を活用する能力を問うもので、歴史総合の「歴史の扉」の「歴史と資料」に対応した内容である。この資料から性別役割分担が高度経済成長期に逆に強化されてしまった可能性も示し、続けて男女共同参画などの問題を配しても良かった。あるいは、労働の歴史を長いスパンで考察し、時代順に配列する問題を加えることで労働の移り変わりを受験者に考えさせても良かった。

問3 「太陰暦ヲ廃シ太陽暦ヲ行フ附詔書」という資料の現代語訳で「太陽暦を各国が普通に使用している」の部分を、日本では文明開化のスローガンで西洋にならった近代化を進めたことや、それまでの日本は中国の暦を改良した太陰暦を使用していたことを併せて考えさせる問題である。

問4 近代東アジアの標準時子午線の変化を示す年表で、1895年に「日本で、新たに獲得した領域を通る標準時子午線が追加された」とあり、日本周辺の地図に罫線が引かれ、どこに標準時子午線が引かれたかを問う。1895年に下関条約が結ばれ、同年に台湾出兵が行われたことを知っていれば、台湾を含むラインが引かれたことは容易にわかる。地図上の台湾の位置についての認識も問われ、知識と複数の資料を組み合わせる能力を試す良問である。

問5 上の年表で1937年に標準時子午線が東経135度に統一されたという記述と、1930年代の日本と大陸の軍事的な緊張状態を書いた生徒のメモを考え合わせ、メモ内の二カ所の穴を埋める問題である。ブレスト＝リトフスク条約は1918年にソヴィエト政権とドイツが単独で第一次世界大戦の講和を決めた条約、ソ連は五カ年計画で集団農場と重工業化を進めたこと、1920年代半ば以降にソ連で独裁体制を確立したのはスターリンであること、1936年にワシントン・ロンドン両海軍軍縮条約が失効したことを組み合わせて考えさせる。ただし、ワシントン・ロンドン両海軍軍縮条約の失効を明記していない教科書があり、歴史用語集や図録を併用した学習が必要になる。

問6 生徒が作成したパネルで、1945年8月15日、イギリス帝国とイギリス連邦に向けてイギリス国王が対日戦勝利のラジオ放送を行ったので8月15日が戦勝記念日になったこと、植民地だった香港は8月30日にイギリス軍が再上陸したので8月30日が解放記念日になったことが読み取れる。よって、ラジオ放送はイギリスの自治領だったオーストラリアやカナダでも放送されたことが正解だとわかる。イギリス連邦とその自治領について、あるいはサンフランシスコ平和条約で多くの国が日本への賠償請求権を放棄したことを記述していない教科書もある。両地がイギリスの植民地だったことや、第二次世界大戦時の中国の政治的なリーダーは蒋介石であることから消去法で解答することも可能であるが、こうした方法に頼らずとも正解にたどり着けるような出題を工夫されるとよかったであろう。

問7 アメリカの対日戦勝記念日は9月2日、ソ連の対日戦勝記念日は9月3日であることが示され、さらに朝鮮語で書かれた1947年9月4日の新聞記事に9月3日の戦勝記念日について書かれたメモが示される。その上で朝鮮半島北部の新聞記事か、朝鮮半島南部の新聞記事かを問う。朝鮮半島北部をソ連が、南部をアメリカが接収したことがわかっているかを問う、比較的平易な問題である。

問8 スミスさんがノートを作成したという設定で、国際化が進む中で、人種や国籍のルーツを超えて多様な人々と共存し協力することを訴えるねらいもうかがえる。ノート1は、沖縄慰霊の日には沖縄戦で日本軍の組織的な戦闘が終了した1945年6月23日に由来するという。ノート2は、サンフランシスコ平和条約で沖縄が引き続きアメリカに占領され続けることが確定した1945年4月28日にちなんで、4月28日が、1960年代に本土復帰運動が高まる中で屈辱の日と呼ばれたという。二つのノートから二つの正しい文を選択する問題である。沖縄戦、朝鮮戦争、沖縄の本土復帰の知識を用いて解答を導く問題である。

第2問 国際イベントとその影響という主題で、Aは大阪万国博覧会の準備が進む中で、近年研究が進んでいる万国博覧会のテーマで出題、Bは戦前の日本の万国博覧会に関するリード文に沿って出題され、Cはアジア競技大会と夏季オリンピックを取り上げ、参加国・地域数の推移と国際連合加盟国数の推移と組み合わせたグラフを基に出題される。

問1 1873年のウィーン万国博覧会と、1900年のパリ万国博覧会に関する二カ所の空欄に入る語句の組合せを答えさせるものである。文章から当時の万国博覧会は時代の先進技術や文化を公表する場であったことを読み取り、なおかつ岩倉使節団が条約改正予備交渉と各国の技術や制度を調査する目的で派遣されたことの理解が求められている。

問2 19世紀末のフランスの経済学者ポール＝ルロワ＝ボリューの著作の現代語訳から、当時の帝国主義の国々のアジア・アフリカ諸国に対する意識を読み取らせ、その具体的な行動と組合せたものを答えさせる。近代の欧米人は、世界は文明化の度合いで序列化され、西洋の近代的な文明を取り入れている国が後進国を保護することは当然の権利であり、これが植民地等の支配を正当化する論理であることを読み取る。その上で、日本も帝国主義的な動きに加わって第一次世界大戦後に旧ドイツ領南洋諸島の委任統治を行ったことを知識として用いて解答させる問題である。

問3 本問はリード文に空欄があり、1920年代の国際協調の時代の風潮を示す語句として、不戦条約を選ばせている。不戦条約は1928年にパリで締結されたこと、第一次世界大戦後フランス等がドイツのルール地方を占領したこと、1814、1815年のウィーン会議でヨーロッパはナポレオン戦争以前の国境に戻されたこと、1939年に独ソ不可侵条約が結ばれたことが解答に必要な知識として求められた。

問4 満洲における20世紀前半の出来事を示す3文を年代順に配列させる。1895年の下関条約で旅順・大連の租借権がロシアから日本に移ったこと、1928年の張作霖爆殺事件で満洲の軍閥である張作霖が関東軍の謀略で列車を爆破されて殺害されたこと、1932年に国際連盟のリットン調査団が満洲事変について調査したという、単純に知識を問うだけの問題であり、残念である。リード文には「朝鮮、台湾のほか、満洲でも大規模な博覧会が開催されました」とあるので、朝鮮、台湾、満洲を日本が植民地や傀儡政権をつくって支配に及んだ順に並べさせ、日本の大陸進出における時代的な意義を考察させる内容でも良かった。

問5 1940年に日本で開催予定の万国博覧会を延期又は中止にするという1938年の『東京朝日新聞』の記事を要約した資料を基に、読み取れる事項を正しく示す文と、時代背景を正しく示す文の組合せを答えさせる。リード文から日中戦争で延期や中止になったこと、資料から南米と北欧諸国は中止や延期に反対、列強諸国は延期に理解があることを読み取り、さらに1937年に日中戦争が

始まったこと、第二次世界大戦勃発は1939年であることなど、基本的な知識が問われた。

問6 本問はグラフから読み取れる変化として二つの文章が示され、その要因の一つとして考えられる事柄X、Yのいずれかと結びつく組合せを答えさせる。1958～1972年に国連加盟国数は増加し、同じ時期夏季オリンピックの参加国・地域数も増加していることを読み取り、1960年がアフリカで多数の独立国が生まれた「アフリカの年」であるという知識を援用して答えを導かせる問いである。本問の出題方法で疑問があるのは、「読み取れる変化」として「い 1986年以降、国連加盟国数は増加している。同じ時期、アジア競技大会の参加国・地域数は減少している」の部分である。グラフを見ると、1986年～1990年頃の国連加盟国数は横ばいで、アジア競技大会の参加国・地域数は1982～1986年にかけて一時減少するが、1986～1990年にかけて1982年を上回る参加となり、以後も参加数は増加している。したがって「い」の文は変化を読み誤った文である。このような出題の仕方では受験者は戸惑ったのではないだろうか。「読み取れる変化」ではなく「読み取った変化」として、誤文である可能性もあることを示唆して出題した方が良かったのではないだろうか。

問7 問6のグラフから生徒が作成したパネルに2か所の空欄が配され、そこに入る語句の組合せを問うものである。冷戦から距離を置こうとする新興国が第三世界の形成を目指すアジア＝アフリカ会議の趣旨を理解し、ソ連など社会主義国の経済協力機構であるCOMECONや、ソ連がアフガニスタンに侵攻した目的を理解しておくことが求められた。

問8 生徒のパネルに、国際関係に関する内容を付け加えるとすれば何が良いかを答えさせる。1972年の日中共同声明による国交正常化、1987年の中距離核戦力全廃条約、1993年のパレスチナ暫定自治協定、ジャカルタ・バンコク・テヘラン・ニューデリー・北京の地理がわかっているならば、「日中国交正常化以前には、東側陣営でアジア競技大会が開催されたことはなかった」が良いことがわかる。資料のデータと複数の知識を組み合わせさせて考えさせる良問である。

3 総評・まとめ

今年度初めて実施された「歴史総合」の試験は、基本的な知識を基に資料を考察し、そこから問題意識を持って思考・判断し、表現した内容を問う構造になっている。これは、歴史総合の指導内容が、項目を貫く主題の下で、資料を活用して得た知識・理解と思考・判断・表現力が一体となって深い理解に至るという構造になっていることに沿ったものと言える。

また、資料に関しても史料を現代語訳にして提示し、あるいは生徒の調査メモやノートとして要点をまとめて提示しており、何が考察する際のポイントであるか分かりやすくなっている。これは、歴史総合が、日本史探究や世界史探究を履修する前に配され、歴史の考え方を学ぶ導入的な科目であることに配慮したもので、適切な配慮であるといえよう。

出題内容も、国際関係や文化交流、歴史的变化や時代や地域ごとの差異を問うなど工夫され、おおむね教科書の本文レベルの基本的な問題であり、受験者の知識や資料活用能力、歴史的思考力などの基礎学力を問うのに適正な問題である。ただし各校で使用している教科書で記述されている教科書と記述されていない教科書がある。指導をする際は歴史用語集や歴史図録等を積極的に活用する必要がある。

4 今後の共通テストへの要望

歴史総合の教科書には世界史をベースにしたものと日本史をベースにしたものがある。そのような状況を踏まえた上で、引き続きバランス良い出題をお願いしたい。今後の要望としては、前近代から近現代までの全体を貫くテーマで、例えば衣食住の変化などで各時代の特徴をつかみながら解答させるような時代融合型の問題の出題も必要ではないだろうか。御検討いただきたい。